

私の大切な2人の生徒のこと 2020年度にクラス担任として3年生を卒業させたある教師より

2 特集

2021年度大学入試合格者の姿から考える 志望をかなえる「マイ・ストーリー」

25 For School Section

- 26 新課程に向けて描く「学校教育デザイン」
東京都立第五商業高校
- 30 —疑問や課題を解決!実践につながる!— 新課程レポート
静岡県立御殿場高校
- 34 指導変革の軌跡
兵庫県・私立神戸山手女子中学校高校
- 38 輝く学年団を訪ねて
大阪府・私立箕面自由学園高校 3学年団
- 42 学校危機管理 基礎講座
テーマ 自然災害への備え

45 For Teacher Section

- 46 発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践
- 46 体育 北海道浦河高校 舟田彩一郎
- 50 化学 東京都立多摩科学技術高校 田中義晴
- 54 SDGsの視点で見る大学の学び
- 54 解説 目標15 陸の豊かさを守ろう
- 54 目標17 パートナリシップで目標を達成しよう
- 56 大学の学び 目標15 鳥取大学 農学部 生命環境農学科 植物生態学研究室
- 58 目標17 慶應義塾大学 総合政策学部
xSDG・ラボ (蟹江研究室)
- 60 これからの進路指導のための 世の中トレンド解説
トレンド・ワード ジェンダー
- 64 誌上で見学 学びのnext
リーダーシップ教育 神奈川県立藤沢清流高校

巻頭 未来を描く! 創る! イノベティブな生徒たち

- 山口由人さん (高校2年生)
東京都・私立聖学院中学校・高校
- 44 データから考える! 指導のnext
ピックアップデータ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所
「子どもの生活と学びに関する親子調査」
- 72 Reader's VIEW

<https://berd.benesse.jp>

本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます。

印刷製本／(株)協同プレス 編集協力／(有)ペンダコ 執筆協力／中丸 満、二宮良太、長谷川敦 撮影協力／荒川 潤、竹内洋平、谷口 哲、ヤマグチイッキ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 ©Benesse Corporation 2021

2020年度卒業生がそれぞれの進路を踏み出して、既に4か月が過ぎました。さかのぼること3年前、初めての大学入学共通テストに向けて、本校でも入学時から入試本番までの3年間の指導計画を作成し、私たち教師は、生徒の進路意識と学力の向上に努めてきました。3年次には、新型コロナウイルスの感染拡大という想定外の事態に直面しながらも、生徒は教師が想像する以上の力を発揮し、3年生の1日1日を懸命に過ごしました。

この春、希望の進路を踏み出した生徒もいれば、それがかなわなかった生徒もいます。今でもよく思い出するのは、2人の生徒のことです。難関国立大学の総合型選抜に挑戦したその2人は、対照的な生徒でした。

Aさんは、ある社会問題の解決を目指すボランティア活動に熱心に取り組んだ生徒でした。幼少の頃、健康上の苦労を経験したことから、自分がこの世に存在しているのは、人々の善意のおかげだと考えていたAさんは、その恩返しとして、中学校時代からボランティア活動に参加するようになりました。Aさんの社会に対する思いは、「総合的な学習の時間」での振り返りや、日直日誌の記述欄などで滔滔とつづられていました。

ボランティア活動を通じてかかわってきた社会問題について研究するため、総合型選抜での受験を決意したAさんが作成した志望理由書の第1稿は、体験に裏づけられたAさんの思いがあふれ出ていました。伝えたいことがありすぎるAさんを、冷静にさせるような添削を、私は何度か繰り返しました。

Aさんが、「大学入学共通テストの自己採点の結果が、目標に届かなかった」と、悲痛な表情で私に報告に来た時も、Aさんの強固な志望理由を知る私は、「Aさんは、合格させなければいけない人だ」と思いました。もちろん、生徒全員に合格してほしい。でも、Aさんは、「大学が合格させなければいけない人」だと思ったのです。

Bさんは、探究学習で素晴らしい成果を収めた生徒でした。フィールドワークなどで大学教授や企業人と交流する中で、グローバルな課題に対する知見を深め、全国の高校生を対象とした論文コンクールでは、最優秀賞を獲得しました。

Bさんの志望理由書には見事な経歴がつづられました。しかし、書面が丁寧な文字で埋められているのに

もかわらず、なぜか十分に書かれていないように思えて仕方ありませんでした。コンクールで賞を獲得したのに、なぜ心に迫ってこないのだろう。繰り返し読むうちに、Bさんの志望理由書の内容が、高校が用意した舞台の中の活動の結果を中心に描いていること、自分の過去や現在、そして大学での学びとつながっていないことに気がつきました。

それでも、私を始め、3年生の指導にかかわっていた教師は全員、Bさんは大学入学共通テストで高得点を上げ、見事合格を果たすはずだと信じていました。実際、共通テスト本番も、Bさんは目標点を軽々とクリアしました……。

しかし、Aさんは合格しましたが、Bさんは不合格になりました。

21年度大学入試をやっと冷静に振り返ることができるようになった今、AさんとBさんは何が違ったのかをよく考えます。そして、それは、生徒が自分のこれまでの学びや活動を、その成果や結果だけでなく、そこに至るプロセスも含めた「ストーリー」として語れていたかどうかではないかと、思うようになりました。

Aさんの合格はとてもうれしいです。きっとAさんは大学でも、そして社会でも、生き生きと活躍するでしょう。そして、Bさんの不合格はとても悔しいです。あれほど真摯に探究学習に取り組んだBさんに対しては、今でも申し訳ない気持ちでいっぱいになります。Bさんの学びや活動が「ストーリー」として語られなかったのはなぜか、私たちの支援に足りなかったことは何だったのか。その答えは簡単には出そうもありませんし、正直、学校だけでできることではない氣もしています。

「先生方には心から感謝しています」と、第2志望の大学へ進むことを決めた卒業式の日Bさんの言葉は、今も鮮明に耳に残っています。Bさんの言葉が本当の気持ちだと分かるからこそ、私たち教師にもっとできることはなかったのかと、私は自問し続けています。

進学校は、難関大学への進学者が多い学校です。本校も間違いなく、進学校の1つです。しかし、これからの進学校は、もしかすると、自分の物語を描き、納得のいく進学ができる生徒が多い学校なのかもしれない……、そんなことを考えています。



Special issue

特集

2021年度大学入試合格者の姿から考える

志望をかなえる

「マイ・ストーリー」

右のエピソードは、本特集を企画するにあたり、全国の先生方と2021年度大学入試を振り返る中で、ある先生が語った実話です。学校推薦型選抜・総合型選抜の拡大が続いていることから、21年度大学入試においても、同じような経験をしたという方は少なくないのではないのでしょうか。エピソードの中で、このある先生は、2人の生徒の合否を分けたのは、「生徒が自分のこれまでの学びや活動を、その成果や結果だけでなく、そこに至るプロセスも含めた『ストーリー』として語っていたかどうかではないか」という仮説を持たれていました。実際、多くの先生方から、同様の趣旨のことを伺いました。そこで本特集では、**生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動と、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を「マイ・ストーリー」と呼ぶこととし、「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証しつつ、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしていきます。**

VIEWnext編集部 統括責任者 柏木 崇

P.6 課題整理

希望進路を実現した生徒の共通点は、「マイ・ストーリー」の形成

佐賀大学 アドミッションセンター長・教授 ^{にしごり}西郡 大 / 岩手県立福岡高校 長岡拓郎
茨城県立水海道第一高校 ^{みつかいどう}菅原冬樹 / 大分県立大分豊府中学校・高校 中原久典

P.10 実践事例1 北海道^{のほりべつあけび}登別明日中等教育学校

探究学習・教科学習・特別活動における徹底した振り返りで、自己を把握する力を高める

P.14 実践事例2 茨城県・私立江戸川学園取手中・高校^{とりで}

志望の「きっかけ」を「動機」に変え、目標と現実とのギャップを埋めるストーリーを描く

P.18 実践事例3 長崎県立^{いさはや}諫早高校

「振り返り・自己分析・選択」の過程を通して、主体的に学ぶ力を身につけさせる

P.22 本特集テーマのnext

新学習指導要領下で、生徒の「マイ・ストーリー」の形成を支援する教師に求められること
ベネッセ文教総研 所長 西島一博